

農業を職業とした先輩たち

まず始めに、農業高校を卒業し、就農した先輩の様子をご紹介します。

雇用就農

◆ 長野県北佐久農業高校卒業

こぐれ みやざき
木樽さん（稲作）・宮寄さん（酪農）

就職先の農業法人 株式会社 永井農場

稲作と酪農、野菜・果樹の複合生産。
6次産業化にも取り組む法人です。



◆ 栃木県立宇都宮白楊高校卒業

沼尾さん（野菜）

就職先の農業法人 イオンアグリ創造株式会社

イオングループの農業法人。
全国で19カ所の直営農場を営んでいます。



◆ 岡山県立高松農業高校卒業

森安さん（野菜・稲作）

オルトファーム

高校から農業大学校に進学。
農家での研修を経て、小松菜生産から経営を開始しました。



自営就農

◆ 茨城県立水戸農業高校卒業

小林さん（野菜他）

野菜屋大輔、農事組合法人那珂アグリス

高校から農業大学校に進学し、卒業後親元就農。
経営継承に向け準備を行うかたわら、新たに仲間と
農事組合法人を設立しました。



長野県北佐久農業高校卒業

こぐれ みやざき
木樽さん・宮寄さん

就職先の法人 株式会社 永井農場

農業の勉強の方法は何通りもあります

－ 就農しようと思ったキッカケは？

祖父が稲作を営んでおり、幼少時代からの手伝いを通じて“収穫の喜び”などを実際に体験したことが大きいと思います。

高校進学前から「農業の道に進もう！」と考え始めていましたので、就農に迷いはありませんでしたが、卒業後すぐに祖父の元で就農するよりも、一度外の世界を知って色々な勉強をすることの方が大切だと思い、永井農場に就職しました。



木樽さん

－ 高校で学んだことは？

高校では、稲作や農業機械について学びました。授業で学んだ基礎知識はとても役に立っています。

また授業とは別に、課題研究で「そばづくり」を行ったことが印象に残っています。収穫の大変さ以上に、やり応えや、やり遂げた達成感はとても言葉に表せないものでした。

－ 将来の目標は？

祖父の農家を手伝った経験はあったものの、今の仕事はやり方そのものが全然違い、作業のスピードや機械装備による効率的な経営のノウハウなど、とにかく勉強になります。

将来、稲作経営者となるために、今は稲作部門の統括をしている専務のようなリーダーとなれるようがんばりたいと思っています。

木樽さん・宮寄さんの就農までの道

農業高校

就農



長野県の農業法人（株）永井農場では、稲作と酪農、野菜・果樹の複合生産を行っています。また、軽井沢ではジェラートのアンテナショップを展開中。チーズも新たに発売予定と、6次産業化による多角経営を目指しています。

現在従業員19名。家族的でアットホームな社風です。

永井進社長は、採用した人材は経営マインドも含めしっかり育て上げ、将来は会社の中核を担う農業者になってもらいたいと期待しています。

農業法人に就職した先輩



宮崎さん

－ 就農しようと思ったキッカケは？

高校進学時はペット関係の仕事を志望していたのですが、授業を通じて酪農の楽しさに目覚めました。また、野菜の栽培実習で得られた感動も就農につながる大きなキッカケです。

高校の先生からは進学も勧められましたが、早く農業をやりたいという思いと、農業法人への就職はタイミングや縁も大事なので、めぐって来たチャンスを掴もうと決断しました。

－ 仕事に就いて感じることは？

会社では、酪農をメインで担当しています。牛たちは可愛くて、日々の仕事が本当に楽しいです。

また、永井農場は複合経営ですので、稲作部門が忙しい田植え時期のサポートも行います。このような一つ一つの経験が勉強になります。

農業法人への就職にはタイミングと縁も大事

－ 将来の目標は？

酪農の仕事をすべて一人で出来るようになりたいです。現在は人工授精師に依頼している「種付け」から子牛への「哺乳」、成牛の「搾乳」までの全行程を早くマスターしたいと思っています。

さらに、野菜の栽培にも取り組みたいと思っています。



Memo 独立を支援する法人

法人の中には、従業員の独立の支援に力をいれている法人もあります。タイプ別に例をご紹介します。

正社員として働き続けることも、
独立の道もある法人の例

こと京都 株式会社（京都府）



高校卒業以上の者

採用時、入口が
2つあります

正社員

3～4年
研修
独立

- ◆ 九条ねぎの生産・加工・販売を学びます。
- ◆ 研修期間の1～2年目は栽培技術、農作業技術等の基本的研修を行います。3～4年目は経営者としてのマネジメント能力の養成と、就農計画づくりを行います。

従業員の独立を重視する
法人の例

有限会社 トップリバー（長野県）



- ◆ レタス、キャベツ、白菜などの生産、経営を学びます。
- ◆ 農場長を任されると、基本給のほか、農場の収益をもとに成功報酬が得られ、実践的な技術力、経営力とともに、経営マインドを育てます。

独立までのモデルキャリアパス

入社後研修
(2年間)

正社員雇用
(2～3年間)

農場長昇進
(2年以上
経営経験)

独立就農

(注)原則、20歳以上の方を採用しています。

栃木県立宇都宮白楊高校卒業 沼尾さん

就職先の法人 イオンアグリ創造株式会社



つくる喜びは何ものにも代えがたいもの！

ー 農業に興味を持ったキッカケは？

実家は農家ではなく、家庭菜園をやっている程度ですが、中2の職業体験でフラワーショップに行って、花を育てる楽しさを知りました。

その後進学した宇都宮白楊高校では果樹、野菜栽培のほか、農業経営なども学びました。

新鮮な野菜を食べたとき、その美味しさにいつも感動します。自分が作った野菜を大勢の人に届けて、野菜の美味しさを知ってほしい。このような思いから、農業を仕事にしようと考えようになりました。

ー 高校卒業後の進路選択は？

とにかく早く農業がしたい！作物を栽培したい！と思っていたので、先生にお願いして、卒業してすぐに就農できる法人を探していたところ、イオンアグリ創造株式会社を薦められました。

各農場が GLOBAL G.A.P. という世界各国で取り組まれている認証を取得するなど、“安全”にこだわった農場運営・農産物の提供を行っていることにも惹かれて、就職を決めました。

※GAP：農業生産活動を行う上で必要な点検項目に沿って、生産活動の各工程の正確な実施、記録、点検及び評価を行うことによる持続的な改善活動です。

ー 自分が農場長になったらどんな農場にしたいですか？

自分が農業をやるモットーは、喜びにつながる良質な野菜を作ること。

「適地適作」により、「良い生産物」「完成度の高い農産物」を提供できるようになりたいです。

年上の経験豊かなパートさんや地域の先輩農家さんに学びながら、みんなの力が最大限発揮できるようなマネジメントができるよう、学んで行きたいと思います。

沼尾さんの就農までの道

農業高校

就農